



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
38

発行日
2017年11月1日

in 東京

2017年度クリニカルパス 教育セミナー(東京)に参加にして

2017.7.15

国保松戸市立病院
時永耕太郎

2017年度クリニカルパス教育セミナー(東京)にパス委員ともども参加させていただきました。テーマは日頃のパス活動で悩んでいるところであり、熱のこもった講演は大変有意義なものであったと思います。

「アウトカム志向パスの作成と看護記録」では中麻里子先生が、アウトカム志向パスでは、共通の目標を持つこと、診療行為を可視化していく作業が重要であると強調しておられ、パスの本質を再認識させていただきました。パスと看護記録については、アウトカムの中に標準看護計画が網羅されていくことの必要性を述べられ、記録としてのアウトカム志向パスの有用性に期待を抱かせて下さいました。

「パスデータの後利用」では小林美亜先生により問題意識を持ちパスデータを後利用することの意義について説明をいただきました。パスは医療チームが共同で作成した患者の最良のマネジメントと信じた仮説でデータに基づいて検証されるべきであると強調されておりました。計画の段階で後利用するため「仕掛けをつくっておく」というお話が印象に残りました。必要な統計的手法を含め盛りだくさんの内容でしたが、パスの面白さを感じさ



せて下さいました。

「思いやりクリニカルパス」では山中英治先生より希少疾患や初めて施行する化学療法のパスにおいても、パス改善、問題点抽出も可能であることを示していただき、新しいパスの発展に期待を抱かせて下さいました。また、退院支援パス、オキシコンチン導入パス、医事課の分析など多職種の間わりの具体例を示されました。『思いやりクリニカルパス』のとおり、パスに関わる者にも思いやりのある講演であったと思います。

「地域包括ケア時代における地域医療連携を考える～連携パスの役割とは～」の木佐貫篤先生の講演では、医療連携はface to faceの関係作りが重要であること、地域の総合医療力が問われることをお話いただきました。スペシャリストをつなぐコーディネーターの必要性、母子手帳は世界的な連携ツールであることなど特に印象に残りました。少子高齢化の時代に、ひとを『つなぐ』こと、情報を共有して地域で幸せに暮らす仕組みづくりが大切

- ▶ 2017年度クリニカルパス教育セミナー（東京）に参加して
- ▶ 2017年度クリニカルパス教育セミナー（大阪）に参加して
- ▶ 2017年度クリニカルパス教育セミナー（山形）に参加して

だと感じました。

当院は2017年12月27日より松戸市内に新病院『松戸市立総合医療センター』として移転します。本セミナーの講演の内容を生かし思いやりのあるパス活動を続け合力で地域医療に貢献していければと思っております。

in 大阪

2017年度クリニカルパス教育セミナー(大阪)に参加して

2017.8.5

大阪市立総合医療センター TQM センター
森 千穂

大阪国際交流センターで開催されたクリニカルパス教育セミナーに、当院からは医師3名、看護師5名、事務2名の計10名で参加しました。37℃という猛暑の中、私たちもセミナーのテーマである「クリニカルパスを役立てよう！広めよう！」という熱い思いを胸に抱き、参加いたしました。

高田 礼先生の「アウトカム志向のパス」では、医療の質向上にはパスのPDCAサイクルのC（アウトカム評価・バリエーション分析）とA（改善策の提案）が重要であり、見直し改善してこそ本当のパス運用である、と述べられていました。また、適応基準を設定する場合、標準的な経過をたどることを設定するのであって、手術や治療の適応基準ではない、という言葉に強く共感いたしました。当院ではクリニカルパス分科会を開催し、各科のパスを多職種で分析フィードバックを行っていますが、全科を網羅することは難しく、また各科独自の分析・改善もできていない状況です。今までバリエーションを分析することを重視していましたが、今後は患者アウトカムの設定にも着眼していくことが必要だと感じました。また、適応基準が適切でないパスも多く存在するため、標準的な経過という視点で見直していきたいと思いました。

勝尾信一先生の「パスデータの後利用」では、BKP（経皮的椎体形成術）のパス分析において χ^2 検定では正の相関に、多変量解析では負の相関が抽出された術後疼痛の事例に興味を持ちました。当院での分析はバリエーションマスタなどの用語が統一されていないため、データを抽出しても効率的に利用できず、最終的に手作業で行っています。まずアウトカムやバリエーション評価を徹底し、用語を統一することから始めなければならないと強く思いました。

松永高志先生の「院内パス活動の進め方」では、病院幹部や診療科・病棟部署との橋渡しになり機能していくというパス委員会のあり方について述べられていました。内科系パスの作成が難しいと私も考えていたので、中間アウトカムの考え方を参考に内科系パス作成を支援していきたいと感じました。

最後に加藤裕子先生の「クリニカルパスを活用した地域連携のこれから」では、口腔管理地域連携への取り組みを拝聴しました。当院でも機会があれば活用させていただきたいと思います。

今回のセミナーでは、当院のパス活動に早速取り入れていきたい内容が多くありましたが、まずは入力漏れをなくす・バリエーションマスタなどの用語を統一することから目指していきたいと思っています。



in 山形

2017年度クリニカルパス教育セミナー(山形)に参加して

2017.9.9

能代厚生医療センター
伊藤博紀

クリニカルパス教育セミナーが9月9日、山形市の山形テルサ アプローチで開催されました。一昨年の仙台、昨年の福島に続き、東北で3回目の開催です。東北地方のパスに携わるたくさんの参加者が会場を埋め尽くす中で、豪華な講師陣によるセミナーが始まりました。

はじめに高陵病院 久保田聡美先生から「今、なぜアウトカム志向のパス？資格認定委員の立場から」と題し、パスを使用する目的を院内全体で共有し、治療目標を患者、家族、

医療者間で合意形成しながらパスを作成・運用することの大切さ、アウトカム志向について原点に帰って考えようというメッセージを伝えていただきました。千葉大学附属病院 小林美亜先生から「パスデータの後利用」と題し、データ後利用の意義、データ分析を念頭に入れながらパスを作成していく(仕込んでいく)ことの重要性、そして実際のデータ分析手法を教えてくださいました。最後に、分析結果を踏まえパス改訂につなげる「改善」がパスの目指すところであることを教えてくださいました。トヨタ記念病院 岡本泰岳先生から「院内パス活動の進め方 パス活動は人を育て、人がパスを進化させる」と題し、病院方針との関連、院内におけるパス委員の位置づけ、委員会内の組織体系、そしてパス教育等をご自身のご経験とトヨタ自動車の手法を交えながら、わかりやすく解説していただき、組織作りに悩んでいたパス委員長である自身にとって、非常に勉強になりました。済生会山形病院 石井政次先生から「地域包括ケアシステムと地域連携そして地域連携パス」と題して地域包括ケアシステムについて詳細にご説明いただきました。退院支援に向けた様々な連携や退院支援部門の強化等を教えてください、山形における地域連携システム(地域連携パス)の実際についても解説していただき、同じ東北地方の取り組みとして大変参考になりました。

セミナーへは、理事長の副島秀久先生はじめ学会役員が多数参加され、他にも隣県でパスに携わる多くの同士にも再会し、パス談義に花を咲かせ、励ましの言葉と元気をもらうことができました。セミナー参加のメリットはこうしたところにもあります。東北地方のパス発展に向けて、来年以降も東北での開催をお願いしたいと思います。

最後に、座長を務められた日本海総合病院 菅原重生先生、山形県立こころの医療センター 三原美雪先生、運営に尽力された山形県のスタッフ、学会事務局の皆様へ厚く御礼申し上げます。



リレーエッセイ 第32回

パスに魅了された事務職員のお話

四国がんセンター 地域クリニカルパス開発研修室
砂野由紀

日本クリニカルパス学会永遠のアイドル 千葉大学医学部附属病院の小林美亜先生からバトンを受け取りました、四国がんセンター 砂野由紀です。

私は、四国がんセンターの『地域クリニカルパス開発研修室』で医療スタッフと連携を図りながら、パスの推進活動をしている事務員です。主な活動として、医療者パスに関しては、医師の代行入力をはじめ審査・統計・整備などの業務、患者用パスに関しては、管理・承認・改訂・印刷・公開などの業務とパスに幅広く携わっています。その他にベンダーとの日程調整や研修会の企画・運営など、事務員の仕事はどんどん増えています。今回は、私の居場所を作ってくれた先生との出会いを含めた自分史を紹介したいと思います。

むか〜しむかし…

「保育園の先生になりたいです」と小学校卒業文集に書いた私は、保育専門学校卒業後、保育士として就職。『ゆき先生』として過ごした20代。気づけば4児の母となり、24時間365日、年中無休の主婦生活。「子ども達にパソコンのことを教えられる母親目指さない?」と友達に誘われ通い始めたパソコン教室、30代半ばにはインストラクターとして教壇に立っていた私がいました。忙しく過ぎ去ったその頃に必死で学んだことが今の私を支えています。

そして、2008年から四国がんセンターの研修助手として働き始めました。当初の仕事は、医療者用および患者用の紙パスの印刷を行い各部署へ配達すること。そして、毎日退院患者さんの紙カルテを1枚1枚めくりながら、適用されているパス名を検索し、内容をファイルメーカーへ入力する作業が私のルーチンワークでした。

初の医療業務に戸惑いながら「パス?」の毎日でしたが、当時クリニカルパス推進委員会委員長であった河村先生(現:クリニカルパス管理委員会委員長)の指導のもと、徐々にパス業務の整備に関わるようになっていきました。そんな中、急遽参加できなくなった看護師さんの代役で第12回日本クリニカルパス学会へ参加する機会をいただきました。初の学会でドキドキの中、新宿の京王プラザホテルで過ごした時間と誘っていただいた懇親会での体験が私の運命を変えることになりました。あらゆる場所でお会いした

パス先駆者の先生方の熱いこと、仲が良いこと、笑顔が絶えないこと。この時の先生方との出会いをきっかけに、もっと楽しく、みなさんに負けないくらいパワーを持ってパスの仕事をしていこうと強く思うようになりました。間違いなく今の私のモチベーションに繋がっていると思います。感謝！

その後、河村先生が事務員を医療職チームの一員と位置づけてくれたことで、パス委員会の運営にも参加するようになり仕事の仲間・幅が広がりました。現在は、クリニカルパス推進委員会委員長羽藤先生の指導のもと、パスの進歩と共に私の活動もさらに拡大してきています。

学会へ行く度に多くの方々と出会い、パワーや知識をいただき、職種に関わらずとても仲良くさせていただいています。二人の委員長のお世話はとても大変ですが（内緒で…）笑。これからも事務員として、医療職への最大限のサポートができるような取り組み、活動を継続していきたいと思っています。

今回は、当院のクリニカルパス合同委員会を開催した時に、はるばる鳥取からご参加いただき、とっても熱く前向きにパス活動に取り組んでいらっしゃる鳥取県立中央病院

クリティカルパス委員会委員長である前田啓之先生にバトンをお渡しします。



砂野由紀さん

事務局より

第18回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：平成29年12月1日（金）・2日（土）
会 場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
（大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51）
会 長：山中 英治

（社会医療法人若弘会 若草第一病院 院長）

メインテーマ：『思いやりクリニカルパス

—明るく 優しく 健やかに—

プログラム：

理事長講演、会長講演、教育講演、特別講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セミナー、
特別企画、一般演題、クリニカルパス展示 など

参加費：当日参加費12,000円

懇親会：12月1日（金）18：30～20：30

懇親会費5,000円

※詳細は第18回学術集会ホームページでご案内しています。

<http://www.congre.co.jp/jscp2017//>

第十八回 日本クリニカルパス学会学術集会

クリニカルパス

思いやり

「明るく 優しく 健やかに」

【会 期】二〇一七年
十二月一日（金）・二日（土）
【会 場】大阪国際会議場
【会 長】山中英治
【開催期間】二〇一七年
六月十四日（水）
七月十六日（水）